

| 特集 |

倫理的感受性を 高める

ACPにも必要な
「価値観を
揺さぶられる」
感性

誰かの人生に深く関わる訪問看護の現場では、
倫理的葛藤に直面することが多くあります。

ただ、それを「課題」とすると意識する機会がない限り、
ケアを提供すべき療養者や家族を知らず知らずのうちに
傷つけてしまう可能性さえあります。

「よかれと思っていたこと」が、相手には不快なことだった。

「きっとこうだろう」という思い込みで、失敗した。

「本当にこれでよかったのだろうか」と今でも迷っている。

本特集では、療養者や家族から学んだ

貴重な経験を寄せていただくとともに、

「価値観を揺さぶられる」ことの重要性に焦点を当てます。